

共生拠点「いくのパーク」の挑戦

UCO 講座「進化する自治を構想する」第 2 回に参加した。今回のテーマは、大阪市生野区で注目を集める多文化共生のまちづくり、「いくのパーク」の挑戦である。講師は NPO 法人「IKUNO・多文化ふらっと」の宋事務局長と金谷理事。まず宋事務局長から、表題について説明があった。

生野区の地域特性は、区民の 5 人に 1 人以上が外国籍住民であり、全国市町村で最も高い。区民アンケートでは「外国人とうまく共存している」という意見の一方、「外国人が多いのが不安」という意見も多い。就学援助率が全国平均の 2 倍以上。子どもの貧困化が問題になっている。

生野区の西部地域において、12 小学校・5 中学校を 4 小学校・4 中学校に再編する「生野区西部地域学校再編整備計画」が推進されている。この計画を受けて、2021 年 3 月に閉校した大阪生野コリアタウン（御幸通商店街、年間 200 万人の集客力）に隣接する御幸森小学校跡地の利活用を行う事業者について公募型プロポーザルが実施され、当 NPO と「RETOWN」という会社が選ばれた。

施設運営は 2 者で構成される「いくのパーク共同事業体」による自主運営で行い、多文化共生のまちづくりに向けて挑戦する。大阪市から学校跡地（施設）を 20 年間の定期賃貸借契約で賃貸。賃料（貸付料）として、毎月 43 万円を支払う。大阪市に賃料を支払うとともに、維持管理費・設備改修費等も原則として共同事業体が担う。設備改修費の巨額の資金調達には苦勞した。

いくのパーク共同事業体の協力関係。ビジョン・目的は「大阪市生野区において多文化共生のまちづくり拠点の構築を通じて、誰もが暮らしやすい全国 NO. 1 のグローバルタウンをつくる。」多文化フラットの目標は、学習支援・多言語相談等を通じた外国ルーツの子ども・住民等とのセーフティネットの構築。RETOWN の目標は、夜市等の同時多発・常設開催を通じた、多国籍・多文化の食による生野のまちのにぎわい創出。目的は同じなのだが、違う目標を実現する（意識的役割分担）ことで、目的を達成する。

内容豊富な報告や資料、質疑を通じて、「進化する自治を構想する」新たな挑戦として、多くの示唆を得ることができた。大阪市議会を傍聴していて、生野区の学校再編計画に関心をもち、市役所で公募型プロポーザル資料を読んだこともあり、生野で開催された講座に参加した。NPO が活動する現地に行き、分かったことも多かった。

それにしても 11 月にしては暑い日であり、地下鉄の鶴橋から会場まで遠く感じた。コリアタウンは前に進むことも困難であり、まさに「オーバーツーリズム」を感じさせる混雑であった。帰りは迷いながら、JR 桃谷駅まで歩いた。閑散とした商店街だが、この一角で大学院時代にアルバイトをした懐かしの商店街でもある。

（2023 年 11 月 6 日）

